

鷹取山の7月に咲く花



アキノタムラソウ

7月頃から秋にかけて普通に見られるシソ科の多年草。日の当たらない木陰で青紫色の唇形の花をつける。(シソ科)



ヤブジラミ

花序は、枝分かれした先端に小さな白い花をつける。やぶに生えて、実がシラミのようにつくのでこの名がついた。(セリ科)



ムラサキニガナ

日陰に1m以上の背の高い茎の上にピンク色の小さな花を下を向けてつける。下の葉は切れ込みがある。(キク科)



カラスザンショウ

7月頃から枝先に花序を形成し、多くの花を密生させる。果実は秋に枝にっぱいつけて落下する。(ミカン科)



ヤマユリ

夏に咲く大型のユリ。山中に生えることからヤマユリの名がついている。白地に黄色い筋と赤い斑点が入る。(ユリ科)



ウバユリ

他のユリと比べて花は緑白色と地味で、葉の形も平行脈ではなく卵形の網状脈。(ユリ科)



コマツナギ

茎が強く馬をつないでも切れないことからこの名がついている。淡紅色の花が房になって咲く。(マメ科)



ネムノキ

ピンク色の羽毛のようなきれいな花をつける。長く伸びた糸状のものは雄しべでピンク色をしている。(マメ科)



ナガバハエドクソウ

日陰の藪に小さな唇型花をつける。根を煮詰めハエ取り紙に使ったことからこの名がついている。(ハエドクソウ科)



ヒヨドリバナ

フジバカマの仲間、7月から咲き始め、秋の七草の代わりになる花である。(キク科)



ラセイタソウ

ラセイタはラシャに似た毛織物で、海岸でよく見られるが鷹取山の岩場でも見られる。夏に地味な花をつける。(イラクサ科)



キハギ

萩の仲間のキハギ(木萩)です。鷹取山では日当たりのよいところに見られる。葉は3出複葉で互生する。(マメ科)